

授業科目名/Subject
社会変動論

学科区分/Department	学年/Year	形態/Term	単位/Credits	クラス/担当者 Class/Instructor
国際関係学科	3	通年	4	服部 慶亘

授業概要 / Outline

授業のテーマ/Overall Theme for Course
 国際社会の動学・静学的理解 (特に、日韓関係をモデルとした考察)

授業のねらい/Goal
 人間と社会の成長過程における生活世界の拡がり、新たな(異なる)文化との接触を可能にした。文化変容・移民(移住)・貿易などに代表される「国際交流」がその結果である。しかし、今も昔も変動しない部分も残存することを忘れてはならない。さらに、文化鎖国主義的な社会も存在している。これらの現実を動学・静学的・視覚的な方法論を用いつつ、理解を深めていきたいと思う。

授業の方法/Content
 前期は社会変動の概念を理解し、社会の変動する部分と不変の部分とを比較・検討する。後期は、社会変動を理論的・実践的に考察することを試みる。その際、具体的事例として日本と韓国との関係を紹介し、その問題点を紹介する。講義では文献やプリント、視聴覚資料などを用い、理解の助けとする。折に触れ、K - POPとJ - POPの比較検討や、韓国のCM・アニメ・映画などの紹介をする。

授業計画 / Teaching Plan

- 第1回 シラバス授業(講義の方針、展開方法、基礎概念、目標などの確認)
- 第2回 「社会変動」とは何か(1) 定義
- 第3回 「社会変動」とは何か(2) 原理
- 第4回 社会動学的視点(1) 前提条件
- 第5回 社会動学的視点(2) culture
- 第6回 社会動学的視点(3) 有機体的発想
- 第7回 社会静学的視点(1) 社会構造の定義・概念
- 第8回 社会静学的視点(2) パラメーター
- 第9回 社会静学的視点(3) 同一視
- 第10回 発展段階論(1)
- 第11回 発展段階論(2)
- 第12回 発展段階論(3)
- 第13回 Cultural Relativism & Ethnocentrism(1)
- 第14回 Cultural Relativism & Ethnocentrism(2)
- 第15回 Globalizationという幻想(1)
- 第16回 Globalizationという幻想(2)
- 第17回 社会変動としての「日韓友情年」(1) 総論
- 第18回 社会変動としての「日韓友情年」(2) 過去史問題と課題
- 第19回 韓国における「日本大衆文化開放」(1) 総論
- 第20回 韓国における「日本大衆文化開放」(2) eunomia と dysnomia
- 第21回 韓国における「日本大衆文化開放」(3) 規制(自主規制を含む)の経緯
- 第22回 韓国における「日本大衆文化開放」(4) アンビバレンス
- 第23回 日本における「韓流ブーム」(1) 総論
- 第24回 日本における「韓流ブーム」(2) ドラマ・映画
- 第25回 日本における「韓流ブーム」(3) K - POP
- 第26回 日本における「韓流ブーム」(4) 諸問題
- 第27回 日韓関係の残存問題(1) 歴史教科書問題と謝罪問題
- 第28回 日韓関係の残存問題(2) 民族性・意識の変容と不変性(温度差)
- 第29回 日韓関係の残存問題(3) 民族性・意識の変容と不変性(日韓比較)

■ 教材 / Teaching Materials

教科書/Textbooks

開講時に指示する / Announced during the first class meeting

必携参考書/Required reference books

著者名/Authors	服部 慶巨
書名/Title of books	補強版ストレス・スパイラル 悩める時代の社会学
出版社/Publishers	人間の科学社
ISBN	ISBN4822602389
備考/Notes	旧版の『ストレス・スパイラル』を持っている学生は、それをテキストとして使用する。

推薦参考書/Recommended reference books

なし / Nothing

■ 履修条件 / Prerequisites

国際関係学科以外の学生の履修も大歓迎する。実際に韓国で得たデータ・最新情報などを適宜紹介するが、個々人の専攻その他はまったく問わない。ただし、「韓流スターや韓国ドラマが好き」というだけで履修する学生の期待には応えられないと思われる。

■ 成績評価 / Evaluation

終講試験と平常点で評価する。

■ その他 / Others

履修学生の興味・関心事が講義内容に反映されるので、講義には積極的に「参加」してほしい。講義連絡などにWebCT (<http://webct.ir.nihon-u.ac.jp:8900/>) を使用する。

■ 連絡先 / Contact Information

服部 慶巨 /